

平成22年9月

石橋愛 学位論文審査要旨

主 査 北 野 博 也
副主査 渡 辺 高 志
同 小 川 敏 英

主論文

The ability to identify the intraparotid facial nerve for locating parotid gland lesions in comparison to other indirect landmark methods: evaluation by 3.0 T MR imaging with surface coils

(耳下腺腫瘍の部位診断における耳下腺内顔面神経の直接同定法と他の代用法との対比：表面コイルを用いた3T MRIによる検討)

(著者：石橋愛、藤井進也、河本勝之、西原圭祐、松末英司、小谷和彦、神納敏夫、小川敏英)

平成22年 Neuroradiology 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は表面コイルを用いた3T MRIにおける耳下腺腫瘍の部位診断能について、耳下腺内顔面神経の直接同定法とその他の代用法(後下顎静脈およびFN lineを用いた方法)の比較検討を行ったものである。その結果、耳下腺内顔面神経は89%と高率に同定された。耳下腺腫瘍の部位診断に関して、顔面神経の直接同定法の正診率は、深葉病変の判定においてFN lineを用いた方法より有意に高く、また、浅葉病変の判定においてはFN lineを用いた方法より有意に低かった。顔面神経の直接同定法は、後下顎静脈を用いた方法との間には有意差はないものの、深葉病変の診断において正診率が高い傾向にあった。本研究により、耳下腺腫瘍の撮像に際して、表面コイルを併用した3T MRIによれば耳下腺内顔面神経の同定は可能であり、深葉病変の部位診断において本法は特に有用であることが判明した。本論文の内容は、表面コイルを併用した3T MRIによる撮像に関して、耳下腺腫瘍の部位診断に新たな知見を加えたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。